

ドライブレコーダーで 捜査協力

桐生市受託事業(協)

5月22日、桐生市役所において、組合員のごみ収集車に設置しているドライブレコーダーの映像を、事件や交通事故の捜査に活用することを盛り込んだ協定を、組合、桐生市、桐生警察署との三者間で締結。同様の協定は県内初。

同組合は、桐生市・みどり市で緑ナンバーを取得する廃棄物処理業者11社で、平成31年に設立し、桐生市内の約2,800か所のごみステーションに出される家庭ごみの収集運搬を請け負っている。

組合設立にあたり、組合員の受注機会の拡大という、本来の組合の目的を目指すことに加え、組合として何か社会へ還元したいという思いも抱いており、今回の協定締結に結び付いた。

ごみ収集車が、年間を通じて市内全域を、決まった曜日、時間帯に同じルートを巡回することから、不審者や保護を必要とする人を発見しやすいという効果が期待される。

新型コロナウイルス感染拡大防止が継続中、市民からごみ収集に対する感謝の声が組合に届くとともに、今回の取組みに対して、地域からの励ましのエールも届いているという。



協定書を手にする福田理事長(左)

培った技術を生かし マスクを製造

県内繊維産地

群馬の伝統の織物等を使った「ご当地マスク」が県内各地で見え始めている。

館林では、日本遺産「里沼」にあやかり、「館林紬」で作られた「ヌモノマスク」を販売。綿100%で軽くさらりとした肌触りが特長。



館林紬を使ったヌモノマスク(館林)

桐生地域においては、「桐生織」の生地を使った商品や、藍・草木染・抗菌・防臭加工など、バリエーション豊かなマスクを製造している。桐生織物協同組合では、組合員が製造するマスクの特長、問い



マスクを紹介する組合ホームページ(桐生)

合わせ先、価格、購入方法などをホームページで紹介している。

また、ニットの産地である太田では、無縫製の3Dマスクを製造。フィット感が高くストラップも同時に編み込むことで耳への負担を軽減するなど、着け心地に工夫を凝らしている。



フィット感が高い3Dニットマスク(太田)